

1 9 9 9

授業概要

【シラバス】

専攻科

〈保育専攻・福祉専攻〉

白梅学園短期大学

SHIRAZUME GAKUEN COLLEGE

目次（専攻科）

保育専攻（1年）

教育原論	3
教育課程論	4
幼児教育特論	5
保育内容研究Ⅰ	6
保育内容研究Ⅱ	7
保育内容研究Ⅲ	8
保育内容研究Ⅳ	9
音楽研究	10
図画工作研究	11
現代保育特論Ⅰ	12
現代保育特論Ⅱ	13
保育健康学特論	14
乳児保育特論	15
障害児保育特論	16
保育・教育相談研究	17
専攻科実習特演Ⅰ	18
専攻科実習Ⅰ	19
総合演習研究Ⅰ	20
修了研究演習	21

保育専攻（2年）

家族福祉特論	25
専攻科実習特演Ⅱ	26
専攻科実習Ⅱ	27
総合演習研究Ⅱ	28
修了研究演習	29

福祉専攻

老人福祉論	33
リハビリテーション論	34
老人・障害者の心理	35・36
家政学概論・実習	37~39
介護概論	40
介護技術	41
障害形態別介護技術（老人）	42
障害形態別介護技術（聴覚障害）	43
障害形態別介護技術（肢体不自由・内部障害）	44
障害形態別介護技術（視覚障害）	45
実習指導	46
介護実習	47
介護福祉特講（老年医学）	48
介護福祉特講（レクリエーションワーク）	49
修了研究演習	50
老人福祉特論	51
社会福祉制度政策論	52
障害福祉論	53
社会福祉援助方法論	54

保育専攻（1年）

【授業科目名】 教育原論	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 1年 前期	
【授業目標】 ○保育の在り方を、保育構造という視点で知ること。 ○自分の頭で考え、自分の言葉でしゃべること。	
【テキスト・参考書】 ①「For the child—保育者養成を考える—」 ②「保育研究」（雑誌）の論文	
授 業 計 画	
<p>保育の現状を知り、子どもにとって保育とは何なのかという哲学的な内容をとりあげて話す。「子どもと人生」「子どもの幸福」「子どもの存在理由」などである。</p> <p>そして、これらの内容と、保育自体の在り方を、「保育構造」という視点で関連づけて考えたい。その際に、構造とは何か、どのような構造論があるのかということを紹介し、分析する。</p> <p>討論と、小レポートを課すので了解しておかれない。</p>	
【評価方法】 レポート	

【授業科目】 教育課程論	【担当者】 小川博久
【開講期】 1 年 後期 (集中)	
<p>【授業目標】</p> <p>保育実践学についての理論と実践についての基本的理解</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>保育援助論 序説～(9)まで</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>小川博久の保育援助論の序説から(1)～(9)までを読み進み、附属幼稚園の実践の見学を含めながら、保育理論を実践に即して学ぶ。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート</p>	

【授業科目】 幼児教育特論	【担当者】 黒田 瑛
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>わが国幼児教育の今日の課題を明らかにし、保育の歴史と多様な保育理論に学び、これからの保育のありかたを考えることを目標とする。</p>	
【テキスト】	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>資料を用意し、随時参考書を紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>1998年の暮れに幼稚園教育要領が改正され、保育所保育指針の改訂もこれにつづくものと思われる。授業では保育の歴史をたどり、今日の子どもがおかれた状況と幼児教育の課題を明らかにする。</p> <p>この課題と取り組むこれからの保育を考えるため、近代における子どもの発見と生活教育・保育の思想の流れをルソー、ペスタロッチ、フレーベルに学び、19世紀の末から20世紀における子ども中心の教育思想と実践をデューイ、モンテッソーリ、そしてシュタイナーに見る。わが国では倉橋惣三をとり上げる。</p> <p>全体を通じて保育における「子ども中心」の思想を子ども観および仕事、経験そして環境等の観点から学び、理解を深めることにしたい。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートおよび授業への出席と参加</p>	

【授業科目】 保育内容研究 I

【担当者】 若松美恵子

【開講期】 1 年 前期

【授業目標】

乳幼児の身体運動を中心とした表現の発達および幼児の身体表現力の発達をふまえ、保育者は、子どもとの関わりの中で、子どもたちが、①感受性が豊かになる、②豊かに表現する、③表現を楽しむにはどのような援助、働きかけをすべきか、その指導方法について学ぶ。特に言葉がけについて演習形式で詳しく学ぶ。

【テキスト】

【参考書】

授 業 計 画

(1) 総論

- ①身体表現やリズムカルに身体を動かす等の幼児教育における現状と問題点
- ②保育現場でみられる身体表現
- ③身体表現の教育的意義
- ④指導の実践例

(2) 身体表現力の発達

- ①乳幼児の発達段階にみられる身体表現（0歳児～5歳児）
- ②身体表現活動にみられる身体表現力の発達（3歳児、4歳児、5歳児）

(3) 身体表現の指導法

- ①ねらい ②援助の基本的姿勢 ③援助の方法 ④言葉がけ

(4) 身体表現の援助における言葉がけの研究

- ①指導実践例における言葉がけの分析と整理
- ②言葉がけのありかた

【評価方法】

講義の一部、対話形式や演習形式で進める中、積極的な発言を期待する。これらを平常点とし、さらに最後に与えた課題について各自の考えを記述してもらう。

【授業科目】 保育内容研究Ⅱ	【担当者】 近藤正樹
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】 幼児教育法の各論“認識教育法”に焦点をあてて、哲学・生理学・心理学・教育学におよぶ学際教科“認識”学を収めている。私流に言えば“input教育法の概論 自然現象の認識のために”ということになる。また認知科学とコンピュータモデルにも言及する。研究法の一助にもなるよう配慮してある。</p>	
<p>【テキスト】 中沢和子著「新版 幼児の科学教育」国土社 (その他プリントを配布する)</p>	
<p>【参考書】 時実利彦著「目で見る脳」 水野寿彦著「幼児の生活と自然」 敎学研究社</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>幼児教育法各論をどう考えるか</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 正しい認識を豊かに身につける教育法 (inputの教育について) 2. 自分自身の知的財産を豊かに、効果的に表現できるようにする教育法 (outputの教育について) 3. 望ましい生活習慣を身につけ、おとなの社会に適応させる教育法 (adaptationの教育について) 4. 自然認識・社会認識・文化認識というサブ・ジャンルの特質 <p>“認識”とは何か</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育学におけるterminology (専門用語と生活用語) 2. 用語の正しい理解のしかた (外国語との比較のすすめ) <p>“認識”を理解するための生理学① 神経細胞</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 環境のリセプター 2. 受容器の構造と機能 3. 神経細胞の構造と機能 <p>“認識”を理解するための生理学② 神経系と脳</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 神経系と神経節・脳の関係 5. 脳の構造と機能の分化 6. 生理学的原因による認識不全の現象 <p>“認識”を理解するための心理学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. レンズ眼による倒立像を正立像とみなす適応 2. 残像と編集 3. 錯覚と先入観 4. イメージと記憶のフィリニング 5. 夢とファイルと発想 6. “認識”のモデルとコンピュータ <p>“思考”を考えるモデル</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中沢和子著「新版 幼児の科学教育」の分析 2. 中沢和子氏の“思考のプロセス”のモデル 3. “思考”モデルとコンピュータのアナロジー 4. コンピュータ理論の現状と未来 5. “認識”と“思考”の教育学的理解 6. “知・情・意”の認識学的説明 	
<p>【評価方法】 時間中に提出するレポート、と期末試験による。</p>	

【授業科目】 保育内容研究Ⅲ	【担当者】 佐々加代子
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>乳幼児（障害児を含む）の言語の生活化の質にねらいをおく保育の追及をする。話しことば、書きことばの発達過程、思考活動や発想・想像・創造活動までを見通した内容の検討をする。</p>	
<p>【テキスト】 佐々加代子コミュニケーション能力弱者のQOL援助、犀書房 佐々加代子、発想・想像・表現、犀書房</p>	
<p>【参考書】</p> <p>随時提供する</p>	
授 業 計 画	
<p>言語の生活化は言語習得とその運用にある。言語習得は話しことばと書きことば、高次元の言語能力である思考活動や想像、その具体的表現としてのことばの産生や創作表現までを含んでみていくことになる。</p> <p>1。乳幼児の言語習得過程について概観する。 言語習得過程の第一段階である、コミュニケーション関係の成立過程についての学習をする。習得過程において、重要な役割を果たして行く信号行動系とその機能について体験的に習得していく。 乳幼児の生活と遊びの場面のv t r、母親の育児日誌、保育の観察記録、保育園や幼稚園の見学観察からの検討をする。</p> <p>2。障害児の言語習得過程について概観する。 “障害”の見方 歪みの問題とその要因についての検討</p> <p>3。保育者自身の言語の生活化の実態についての検討 保育活動において、その質を高めていくには、保育を担う保育者の質が問われることになる。乳幼児の言語の生活化の担い手ともなる保育者自身の言語の生活化の状況（受講生の現況について）を言語能力の側面とその運用能力に関連する、人間関係（コミュニケーション）能力について評価をする。その上でその保育者の質への道筋についての検討をする。音声表現も含めてみる。</p> <p>4。いわゆる言語教材；絵本、紙芝居、パネルシアター、ことばあそび、ペープサート、素話、などの素材とその特徴及びその選択法についての検討をする。</p> <p>5。対象児の年齢区別の言語の生活化；かかわりかたの技法 6。創作作品とその表現法；年齢区分なく使えるもの 7。保育場面での表現法；音声を含むかかわりかた</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況と平常点、演習結果のまとめのレポートとレポートで行う。</p>	

【授業科目名】 保育内容研究Ⅳ	【担当者】 民秋 言
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】 保育所保育指針や幼稚園教育要領では「環境を通して行う保育」が特筆されており、そのなかで環境としての人間関係は重要な位置を占める。また、保育指針や教育要領では領域として「人間関係」がとりあげられている。本講では、子どもが育つ環境としての「人間関係」と、育ちのねらいの内容としての「人間関係」の二つを一つのものとして捉え、とくに集団生活に注目しながら考えていく。社会的存在としての人間・子どもの生活拠点としての人間関係のあり様を検討する</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>講義中に適宜指示する</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの育ちにとって必要な「人間関係」とは何か 2. 人と人との関わりをもつ意味 3. 集団生活のなかでの子どもの生活 4. 集団生活の展開過程 5. 集団生活を支える社会規範 6. 集団生活を支える文化 7. 子どもの集団生活と保育者の役割 8. 人間関係の発展と保育カリキュラム 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート並びに平常点</p>	

[授業科目名] 音楽研究	[担当者] 秋山治子
[開講期] 1 年 前期	
<p>[授業目標]</p> <p>① 幼児の音楽教育または音楽表現領域の指導と援助の仕方全般について学ぶ。本授業では主としてこれまでに学んできた音楽表現科目の知識や理念を基礎として、ひとつの易しいテーマから奥行きのある展開と洞察へと導いてゆくことを目標にする。その試みとして、実践的に（年齢、発達に見合った楽器付けや合奏編曲の方法等）研究を進めてゆく予定である（理解できない人ができるまで説明をして進むことをモットーとする）</p> <p>② 幼児の音楽教育に必要な音楽理論の解説と演習および鍵盤楽器を中心とする伴奏法を実践しながら解説する。</p>	
<p>[テキスト・参考書]</p> <p>必要な楽譜や書籍は授業の中で紹介する</p> <p>五線紙または五線付きノートを用意すること</p>	
授業計画	
1、2回目	楽器を知る
3、4回目	3、4、5歳児と楽器を考える
5、6回目	幼児の合奏と音楽表現について考える
7、8回目	やや難しい音楽理論を解説、演習する
9～12回目	伴奏法を学ぶ（きれいな響きの伴奏をどうしたら付けることができるかを、実践する）
<p>[評価方法]</p> <p>平常点、提出物、出席回数により評価する</p>	

【授業科目名】 図画工作研究	【担当者】 花原 幹夫
【開講期】 1年 前期	
【授業目標】 子どもの造形表現活動の援助について、具体的な実践事例をもとにして学びます。 特に、豊かな造形表現を実現するための環境づくりと援助指導のあり方について考察します。	
【テキスト】 特に使用しません	
【参考書】 特に使用しません	
授 業 計 画	
<p>◆以下のテーマについて、授業を展開していきます。第1回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業のすすめ方などについての説明を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの造形表現活動を豊かにしていくための環境づくりについて 2. 子どもの造形表現活動を保育者として、どう受けとめ、どう働きかけるか、について 3. 以上の視点について、実際の保育現場での実践事例を検討素材にして、援助指導のあり方について分析考察をしていきます。 <p>(実際に保育現場へ行ったり、保育現場からのVTRや作品などの具体的な実践資料を活用していきます)</p> <p>*各授業の中で、レポート報告や実践検討を行なっていきます。</p>	
【評価方法】 授業で学んだ内容を一冊のノート（orファイル）にまとめて提出	

【授業科目名】 現代保育特論 I	【担当者】 民秋 言
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】 都市化、核家族化・少子化、女性（とくに母親）の社会進出の増大 価値観の多様化など社会のはげしい動きのなかで保育ニーズは多様化 し、さまざまな保育のあり方が求められている。さらに、児童福祉法 の改正をもととする制度変革期にあつて、保育行政からの課題も少な くない。家族や地域社会の保育ニーズにどう応えるか、そのための専 門性をいかに習得していくか、主として保育園に例をとりつつも幼稚 園にも共通のテーマとして捉えていく。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>講義中に適宜指示する</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもをとりまく社会の動き 2. 保育をとりまく社会の動き (1)都市化 3. 保育をとりまく社会の動き (2)核家族化 4. 保育をとりまく社会の動き (3)少子化 5. 保育をとりまく社会の動き (4)女性の社会進出の増大 6. 保育をとりまく社会の動き (5)価値観の多様化 7. 保育制度の改変と保育園 (1)保育行政の変化 8. 保育制度の改変と保育園 (2)保育園機能の変化 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート並びに平常点</p>	

【授業科目】 現代保育特論Ⅱ	【担当者】 鈴木 佐喜子
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>「現代保育特論Ⅰ」において明らかにされた多様な保育ニーズに対応する保育のあり方、専門性について、より実践的に学習し、今日の保育実践を考える</p>	
<p>【テキスト】</p> <hr/> <p>【参考書】</p> <p>授業時に紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>まず、今日の子育ての現状と保育の課題を深め、さまざまな子育て支援の実践、取り組みを行っている施設、保育所、幼稚園等の実践や保育論を取り上げ、検討する中で、その内容を知り、それぞれの問題の特質、大切な視点、課題についての理解を深める。</p> <p>その際、学生個々人が課題を持ち、現代の親や子どもの育ち、保育のあり方について、自分なりの視点で捉え直していけるように進めるつもりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 今日の子育ての現状と保育の課題 2. 子どもの育ちと求められる保育実践 3. 子育て支援とは 4. 働く母親への支援 5. さまざまな困難を抱えた家族への支援 6. 子育てに対する支援 7. 親と保育者の関係の捉え方 	
<p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①平常授業でのレポート、討議への参加 ②学期末レポート 	

【授業科目名】 保育健康学特論	【担当者】 村田 務
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>1、日常の保育活動の中で遭遇するさまざまな子どもの健康問題や健康保育の実践について、具体的に理解する。</p> <p>2、子どもの健康問題や保健活動に対する見方や考え方について理解を深める。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書（月刊誌）</p> <p>毛利子来・山田真編集代表：ちいさい・おおきい・よわい・つよい、ジャパンマシニスト社</p>	
授 業 計 画	
<p>保育健康学特講は、保育実践における諸問題を健康学（健康の維持増進と疾病予防の学問）的に検討することを目的とする。その講義内容は、大きく分けて、子どもの保健管理（主体管理、環境管理、生活行動管理）、保健教育、保育者の健康管理の3領域からなる。</p> <p>今日、健康対策において「ヘルスプロモーション」という概念が強調され、仲間とともに自らのからだや健康をまもり育てることのできる人間、そして健康的な環境と状況を創りだしていける人間が求められている。そこで、健康問題を検討するためのアプローチと視点は、教育学的、行動科学的な手法を重視する。</p> <p>主なテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> 予防接種はどれを、どう受けますか 健康診断で何が分かるの 病気のみかた、医者へのかかりかた 農薬や添加物「少し」なら大丈夫？ 保健室ってどんなところ？ おやつ、お菓子はむずかしい 子どもたちに何を食べさせたらいい？ けが、誤飲、転落 育児に除菌は必要ないの 知りたい食中毒と伝染病 肥満は病気のもと？ 知りたいインフルエンザ 	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート、学習に対する意欲と努力</p>	

【授業科目】 乳児保育特論	【担当者】 鈴木 佐喜子
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>乳児保育における現状と課題を明らかにするとともに、今日、焦点となっている理論的、実践的問題を取り上げ、乳児保育についての理解を深める。また、子どもの育ちを保障する保育、親への援助のあり方を実践的に追求する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業時に、指示する</p> <hr/> <p>【参考書】</p> <p>授業時に紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>概ね、以下の内容で授業を行う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児の発達と保育実践 <ol style="list-style-type: none"> ①発達研究、実践研究が明らかにした乳児の発達と保育 ②乳児を保育実践についての各自の課題をもとに、実践検討を行う 2. 乳児保育の保育内容・方法に影響を与えている理論の検討 母子関係論、アタッチメント研究と乳児保育 3. 乳児保育をめぐる状況と問題 <ol style="list-style-type: none"> ①乳児保育ニーズの増大と保育所 ②乳児の長時間保育 ③今日の子育てと乳児保育 	
<p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①平常授業でのレポート、討議への参加 ②学期末レポート 	

【授業科目】 障害児保育特論	【担当者】 堀江まゆみ
【開講期】 1 年 前 期	
【授業目標】 1. 障害児の行動特徴や発達を踏まえた上で、一人ひとりの発達援助の実際や保育実践について、ケースカンファレンス通して学ぶ。 2. 保育所・幼稚園における障害児保育の実践について、行動観察や遊び参加を行い、子どもの発達理解と援助に関する専門性を深める。 3. 障害児地域支援事業における関連機関や連携システムについて、実践を見ながら考える。	
【テキスト】【参考書】 授業の中で、適宜、提示する。	
授 業 計 画	
<p>授業内容は主に、障害児の発達や行動特徴の理解について、基本を押さえながらも、実践報告や文献を読みながらさらに深めていく。</p> <p>また、実際に障害児保育の実践を行動観察や参加観察を通して体験し、その観察結果をもとにケースカンファレンスを進めていく。</p> <p>この時、これまで学習してきた発達心理学の知識を使いながら進めるので、基本を復習しておくこと。授業では実践資料やVTRを使用し、具体性、実践性を伴った学習を行う。およそ、以下の項目にそって進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害児保育に関する基本的理解 (主に、実践報告を読みながら深める) <ol style="list-style-type: none"> ①インテグレーションとインクルージョン <ul style="list-style-type: none"> ・「いっしょの保育」における療育的視点と社会教育的視点から ②障害の特徴と発達の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・「特別な発達ニーズをもつ子どもたち」の理解 ・発達遅滞(知的障害)、自閉性障害の発達特徴と保育実践 ・学習障害(特異性発達障害)の発達特徴と保育実践 ・注意欠陥/多動症候群(ADHD)の発達特徴と保育実践 ・運動障害の発達特徴と保育実践 2. 障害児保育の実践とケースカンファレンス <ol style="list-style-type: none"> ①障害児あるいは「発達が気になる子」の遊び参加観察・行動観察 <ul style="list-style-type: none"> ・実際に、「保育・幼稚園にでかけ行動観察」を行う、あるいは「遊びの会」のなかで遊び援助および参加観察を行う。 ②これをもとに、ケースカンファレンスを進める。 3. 家族とともに地域で生きることを支援する(実際に、当事者の話を聞く場を設定する) <ul style="list-style-type: none"> ・地域生活援助のシステムについて ・学童保育の実際 ・レスパイトサービス他、支援サービスの実際 ・専門的機関との連携と相談活動の実際 	
【評価方法】 授業の中でレポート、ケースカンファレンスの内容を評価する	

「授業科目名」 保育・教育相談研究	「担当者」 村田保太郎
「開講期」 1年 後期	
<p>「授業目標」 保護者の育児相談に対応出来る、面接技法及び子どもの育児・保育臨床について基本的な知識・理解・方法を実践的・实际的に学ぶ。</p>	
<p>「テキスト・参考書」 Q & A 子どもの心の健康相談室（0歳から6歳） 平凡社</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1、児童福祉法の改正によって、新たに保育園において保護者に育児相談並びに助言することが、努力義務として課せられた。また、幼稚園での預かり保育等も行われるようになる等、保育・教育相談が、重要になってきた。 2、保育・教育相談の、現代的意義について理解を深める。 3、子育て支援活動の実態と、組織・方法について理解を深める。 4、子育て支援活動の、実際を通してその現代的意義について学ぶ。 5、相談の対象となる子どもの行動の原因・背景・生育などについて、臨床的にとらえることや、かかわることが出来るように学ぶ。 6、ロールプレイングなどを通して、相談の技法や対人理解を学ぶ。 7、教育相談やカウンセリングについて理解を深め、対人関係理解を深める。 	
<p>「評価方法」 1、ロールプレイングの、実際場面による評価</p> <p>2、ケース・スタディの、実際場面による評価</p> <p>3、進行状況に応じて、小レポートを出す</p>	

【授業科目】 専攻科実習特演 I	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 1 年 後期	
【授業目標】 ① 専攻科実習の意義について知ること。 ② 実習内容について知ること。 ③ 実習テーマについて討論し、決定すること。 ④ 実習内容について分析し、まとめること。	
【テキスト】	
【参考書】	
授 業 計 画	
① 専攻科実習について、その意義と、位置づけについて話す。 ② 実習内容について話す。 ③ 各自の実習テーマについて報告し、討論する。(1) ④ 同上 (2) ⑤ 同上 (3) ⑥ 実習内容についての分析、討論。(1) ⑦ 同上 (2) ⑧ 同上 (3) ⑨ 同上 (4) ⑩ 同上 (5) ⑪ 実習全体のまとめ(1) ⑫ 同上 (2) <div style="margin-left: 400px;"> } 各自の実習をビデオに撮り、 それを見ながら、分析する。 </div> <div style="margin-left: 300px;"> } 実習記録を作成するための、討論とまとめ。 </div>	
【評価方法】 平常点とレポート	

【授業科目】 専攻科実習 I	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 1 年 後期	
【授業目標】 ① 「専攻科実習特演 I」で学んだ実習内容を元にして実習を行なう。 ② 各自が決めた「実習テーマ」に基づいて実習を行なう。 ③ ビデオを撮る。	
【テキスト】	
<hr style="border-top: 1px dashed black;"/> 【参考書】	
授 業 計 画	
① 各自、より質の高い保育者をめざして、主体的に実習に取り組む。 ② 実習中の2週目の土曜日に、学内で、実習途中の反省会を行なう。 ③ 「指導計画案」を立て、指導実習を実施する。 ④ ビデオ撮影をする。	
【評価方法】	

【授業科目】 総合演習研究 I	【担当者】 近藤正樹・民秋 言														
【開講期】 1 年 前期															
【授業目標】 「総合演習研究 I」は「修了演習研究演習」に必要な基礎的な研究演習である。各週、水・木の2回開講するうち、水曜（近藤）は「研究方法」と「教育統計」について演習を行いつつ「科学的手法」の特徴を伝えることにする。															
【テキスト】 飯田良治・民秋言編 「課題研究・セミナーの手引」 萌文書林															
【参考書】 田中未来編 「保育研究の視点と方法」 川島書店 梅樺忠夫著 「知的生産の技術」 梅樺・金田一・阪倉・日野原監修 「鑑談社 カラー版 日本語大辞典」 講談社															
授 業 計 画															
<p>“知らなかったこと” 知るためのふたつの道筋</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. “お勉強”の思想 と “研究”の思想のちがい。 2. 知識吸収と情報メディア 3. 原著・総説・教科書の“正しさ”と“新しさ”の比較。 4. “研究”の深さと“知的発達段階”。 <p>“研究”の視点と手順</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科書や講義内容は興味の方角を示唆するが、テーマを手えてくれるリストではない。 2. 身近なところにテーマがある。小さなテーマからかたづけなさい。 3. 本から知ったことは、研究のレディネスか 研究の資料にしかならない。 4. テーマが見つからない人のために <p>知的生産の技術（宿題を参考すること）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文献リストを作る 2. 用語のリストを作る 3. カードのすすめ（本から得たもの、話から理解したもの、自分の考えとして浮んだもの） <p>研究の方法（宿題を参考すること）</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>1. 文献研究法</td> <td>3. 観察研究法</td> <td>5. 実験研究法</td> </tr> <tr> <td>2. アンケート調査法</td> <td>4. 実践記録法</td> <td></td> </tr> </table> <p>統計処理（大数統計）（宿題を参考すること）</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>1. 統計の意義と統計表現</td> <td>5. 2つの統計の関係（回帰直線）</td> </tr> <tr> <td>2. 代表値（平均・中央値・並み数）</td> <td>6. 2つの統計の関係（相関係数）</td> </tr> <tr> <td>3. バラッキを示す値（標準偏差他）</td> <td>7. RateとRatio</td> </tr> <tr> <td>4. 左右対象でないグラフ（歪度）</td> <td></td> </tr> </table> <p>推測統計処理（小数統計）</p>		1. 文献研究法	3. 観察研究法	5. 実験研究法	2. アンケート調査法	4. 実践記録法		1. 統計の意義と統計表現	5. 2つの統計の関係（回帰直線）	2. 代表値（平均・中央値・並み数）	6. 2つの統計の関係（相関係数）	3. バラッキを示す値（標準偏差他）	7. RateとRatio	4. 左右対象でないグラフ（歪度）	
1. 文献研究法	3. 観察研究法	5. 実験研究法													
2. アンケート調査法	4. 実践記録法														
1. 統計の意義と統計表現	5. 2つの統計の関係（回帰直線）														
2. 代表値（平均・中央値・並み数）	6. 2つの統計の関係（相関係数）														
3. バラッキを示す値（標準偏差他）	7. RateとRatio														
4. 左右対象でないグラフ（歪度）															
【評価方法】 宿題の発表状況と期末試験による。															

【授業科目名】 修了研究演習	【担当者】 専任教員
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育のなかで問題とされるテーマを各自選び、その課題解明を試み、論文にまとめる。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>各担当教員の指示による。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 総合演習研究Ⅰの学習を踏まえ、学生がテーマを決める。 2. テーマによって、担当教員を決定する 3. 担当教員の指導を受けながら、研究作業を進める。 4. 修了研究論文をまとめ、提出する。 	
【評価方法】	

保育専攻（2年）

【授業科目】 家族福祉特論	【担当者】 高橋重宏
【開講期】 2 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>家族・家庭の概念、近代家族・現代家族、家族・家庭にかかわる統計的実態、家族関係の病理、ファミリーサービス（カウンセリング、家族療法等）について概説し、具体的なケース研究をもとにディスカッションも行いたい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に、定めない。</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1 家族・家庭の概念 2. 国連・国際家族年の理念と原則 3. 近代家族・現代家族の理念型 4. 各種統計からみる家族・家庭 5. 家族関係の病理（諸刃の剣としての家族・家庭） 6. ファミリーサービスとは 7. ケース研究 8. 家族福祉の課題 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席、ディスカッションへの参加度合い、レポートにより総合評価を行う。</p>	

【授業科目】 専攻科実習特演 II	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 2 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 週2日の実習の在り方について知ること。 ② 各自の「実習テーマ」について報告し、学び合うこと。 ③ 毎週、実習内容について分析し、学び合うこと。 ④ 実習終了後、全体の分析とまとめをすること。 	
【テキスト】	

【参考書】	
授 業 計 画	
<ul style="list-style-type: none"> ① 実習の意義と内容について話す。 ② 各自の「実習テーマ」について報告し、学び合う。 ③ 具体的な観察の方法について学び合う。(1) ④ 同上 (2) <p>(以上が実習前の内容。以下は実習中と、終了後の内容。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 毎週、実習内容について分析し、討論する。 ② 実習終了後、全体で、実習内容の分析とまとめをする。 ③ 実習記録の小冊子を作成するまとめと作業をする。 	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点とレポート</p>	

【授業科目】 専攻科実習 II	【担当者】 岡本富郎
【開講期】 2 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>「専攻科実習特演II」で学んだことを元にして、実習に取り組む。</p>	
<p>【テキスト】</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>① 質の高い保育者をめざして、総合的な実践能力を高めるために、多様な視点を持って観察し、体験をする。</p> <p>② 指導計画案を立て、可能な限り、指導実習を体験させて戴く。</p> <p>③ より、実技的に高度な実践能力を身につけるための体験をする。</p>	
【評価方法】	

【授業科目】 総合演習研究Ⅱ	【担当者】 鈴木佐喜子・民秋 言
【開講期】 2 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>この科目は、「総合演習研究Ⅰ」の成果を土台として、保育者として、一層高度な資質を養い、実践的な力量を高めることを目標とする。</p>	
【テキスト】	
【参考書】	
授 業 計 画	
<p>この科目では、より高い実践的な力量、指導力を高めるために、位置づけ、ディスカッション、実地体験、調査等の方法を用いて演習的に行う。</p> <p>「総合演習研究Ⅰ」の課題「人間尊重・人権尊重」「少子化問題」「多様な保育ニーズ」「異文化理解」「社会への男女共同参画」等を取り上げ、幼稚園教育・保育の場においてどのように実現していくのか、指導方法や保育内容等、実践的に検討する。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席・授業における討論への参加状況・レポート</p>	

【授業科目名】 修了研究演習	【担当者】 専任教員
【開講期】 2 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>保育のなかで問題とされるテーマを各自選び、その課題解明を試み、論文にまとめる。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>各担当教員の指示による。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 総合演習研究Ⅰの学習を踏まえ、学生がテーマを決める。 2. テーマによって、担当教員を決定する 3. 担当教員の指導を受けながら、研究作業を進める。 4. 修了研究論文をまとめ、提出する。 	
<p>【評価方法】</p> <p>授業への参加状況および修了研究論文により評価する</p>	

福 祉 専 攻

【授業科目名】 老人福祉論

【担当者】 佐野 英司

【開講期】 専攻科 福祉専攻 前期

【授業目標】

老人福祉についての基本的視点をしっかり身につけることを授業目標に進め、後期の「老人福祉特論」授業に結びつけていきます。

1. 老人福祉の社会的背景について学びます。
2. 老人福祉の理念・目的を学びます。
3. 老人のおかれている状況及び生活実態について学びます。
4. 現行および今後の老人福祉、老人保健の政策、制度について学びます。
また、老人福祉、老人保健サービスの体系、事業内容及び活用手続きなど、具体的実践活動について学びます。
5. 老人福祉実践について具体的事例をもとに学び、ケアの在り方について考えます。

【参考図書】

- 「すべての人にゆたかな老いを」 (文理閣)
「老いを生ききる」 (法蔵館・田邊順一著)
「老いと暮らす」 (岩波書店・安田陸男著)
その他、授業中に適宜紹介します。また、参考論文はコピーして授業で使います。

【授業の進め方】

授業は、上記授業目標を具体化し、プリントを中心に進めます。また、ビデオも活用します。補講を含め15回の授業を行います。

【評価の方法】

授業は、定時に始めます。

授業の合間になるべく小グループによる話し合いを取り入れ、最後の10分間で自分自身の授業のまとめレポートを書きます。

また、定期試験は、レポートとします。授業は最初から聞いていないと理解が不十分です。したがって、遅刻は厳しくチェックします。

評価は、平常点(遅刻、欠席、ミニレポート提出状況等)20%、前期試験(レポート)80%で、その総合点で評価します。

【授業科目名】 リハビリテーション論	【担当者】 菊池恵美子
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの理念と基本原則を理解する。 2. 障害の分類とその意味、必要な援助法を理解する。 3. リハビリテーションに関わる専門職種 of 役割と機能を理解する。 4. 対象者の疾患特性に応じた介護の知識と技法を学ぶ。 5. 介護に必要な福祉用具についてその種類と適応を学ぶ。 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>教科書：三訂介護福祉士養成講座4 リハビリテーション論 中央法規 1997</p> <p>参考書：松村 秩編，生活リハビリテーションマニュアル，中央法規，1992</p>	
授 業 計 画	
<p>授業目標に対応した授業計画を以下に示す（講義は2コマ連続）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入（リハビリテーションの意味・歴史・障害とは？） 2. リハビリテーションの体系と方法（関連機関・関連職種の機能） 3. リハビリテーションの分野で使われている評価法 4. 日常生活活動と介助法（実技） 5. 障害の診かた（片まひ・パーキンソン他） 6. 高齢者の心身機能の特性と体力評価（実技） 7. 介護に必要な福祉用具の種類と使用方法 8. まとめとテスト <p style="text-align: center;">毎回生活リハビリテーションと介護に関するVTRを使用する</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>評価：筆記試験100%</p> <p>出席：学則に従う</p>	

【授業科目】 老人・障害者の心理(障害者)	【担当者】 堀江まゆみ
【開講期】 1 年 後 期	
【授業目標】 1. 障害者の心理的特性を踏まえた上で、福祉援助者としての援助の技法や実際について学ぶ。 2. 今後の障害福祉の動向からみた援助者としての課題について考える。	
【テキスト】【参考書】 授業になかで配布するプリント・テキストを中心に進める。 授業の中で、適宜、紹介する。	
授 業 計 画	
<p>以下のような内容について、資料・ビデオを使用しながら進める。 適宜、授業の中で、レポート課題を提示するので、新聞、ニュースなどの情報について、各自の関心のあるところを事前に準備しておくこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害者の心理を理解する視点 2. 障害の種類と心理的特性(特に、以下の障害について学ぶ) <ul style="list-style-type: none"> ・知的障害と心理特性 ・コミュニケーションの障害と心理的特性 ・精神の障害と心理的特性 3. 障害者の心理的問題を理解する技法(特に、以下の技法について学ぶ) <ul style="list-style-type: none"> ・面接・相談技法 ・心理療法 4. 障害の受容に向けての援助 <ul style="list-style-type: none"> ・障害の受容に向けての援助 ・障害の受容へ向けての援助の実際 ・障害の受容と家族 5. 環境とのかかわりのなかでの心理的援助(各自のレポートを踏まえて進める) <ul style="list-style-type: none"> ・人的環境と障害者援助 ・物的環境と障害者援助 ・社会環境と障害者援助 6. 現在の障害者福祉の動向と求められる援助者の理解 (各自のレポートを踏まえて進める) <ul style="list-style-type: none"> ・障害者の自己決定権とアクセス権の保障権利擁護 ・各自のレポート報告 	
【評価方法】 ①授業のなかでの小テスト ②出席点 <div style="text-align: right;">での総合評価</div>	

【授業科目】 老人・障害者の心理	【担当者】 高山 緑
【開講期】 1 年 後期（前半）	
<p>【授業目標】</p> <p>本講義のねらいは老年期の心理を理解することである。年齢をとれば誰にでも起きる正常な加齢と、病気などが原因で起きる病的な加齢とを区別して、現実におこっている加齢（老化）を偏見なく理解できるようにする。また、生涯発達の枠組みの中で、老年期の発達を学んでゆく。</p>	
<p>【テキスト】 下仲順子(編) 老年心理学 培風館 西村純一(著) 成人発達の心理学 酒井書店</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1 老年心理学の歴史・高齢化社会のもたらしたもの 高齢者の心理を学ぶにあたり、老化や老年期などの概念と理論、老年心理学の歴史、高齢化社会の現状などについて学ぶ。 2 高齢期の疾患と身体・生理機能の老化 高齢期におこりやすい身体疾患、視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚などの感覚機能の発達と老化、および運動機能の老化などについて学ぶ。 3 高齢者の記憶 記憶の加齢変化の特徴について学び、記憶の低下による失敗を少なくするにはどうしたらよいか、考える。 4 高齢期の知能・創造性・知恵 生涯を通じて知能はどのように発達するのか、生涯発達の視点にたって理解する。また高齢期の創造性、知恵にいても学んでゆく。 5 人格と加齢・高齢期の適応 人格が成人期以降、どのような発達・変化をするのか生涯発達の視点にたって理解する。 6 死と死にゆく過程 死にゆくプロセスについて学び、人間として尊厳に満ちた死を迎えるにはどうしたらよいか、また残された人々のところをどのように理解したらよいかについて考える。 7 高齢期の家族と対人関係 高齢期の家族関係、対人関係について、モデルや研究成果をふまえながら理解する。 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">講義への取り組み方・レポート等から総合的に評価する</p>	

【授業科目】 家政学概論・実習（住生活）	【担当者】 安倍 澄子
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>家族と家庭生活の運営・管理に関する基礎的知識・事項と、生活運営や生活様式に影響を与える住生活領域に関する基礎知識・事項を学習し、家事労働・介護援助のあり方と介護援助を生活自立・維持側面と、地域社会との関わりをもふまえ、その社会的役割についても考察する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>宮崎礼子編 「家政学概論」 誠新書房</p>	
<p>【参考書】</p> <p>宮村光重・倉野精三編 「家族の変化と生活経済」 朝倉書房</p>	
授 業 計 画	
<p>今日の高齢化社会といわれている現状を家族の変化とあわせて概観し、家庭生活にもたらされている変化や多様な影響について把握する。さらに、地域社会、とりわけ居住環境との関連からもその影響について検討を加える。</p> <p>これらから、家事・介護援助に携わる者として、家族の多様なあり方への理解と、個々人の生活の仕方や家族観・生活観が世代によって異なっていることへの洞察力を養うようにする。</p> <p>そこで、授業では、家族の変化と家庭生活についての社会的視点と生活史的視点をもって把握できるように配慮し、あわせて住まい方や地域社会の居住環境との関連からも、介護援助のあり方を考察できるようにし、家事・介護援助者としての実践力を培う一助としたい。</p> <p>授業で取り上げる項目は、おおよそ次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族・家庭生活の現状と変遷 2. ライフサイクル・家族周期の変化と生活設計の課題 3. 生活時間論 4. 家事労働論 5. 生活経済（家計費論）、高齢者・障害者と消費者問題 6. 住まい方と居住環境 7. 住宅改善の視点とその効果 8. 高齢者・障害者と住政策 <p>なお、実習では、家計費分析、生活時間調査分析から生活実態把握の手法を習得し、問題点の考察を行う。また、住宅安全チェック、バリアフリーに関する体験学習などを行う。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートと授業や実習時における取り組みの姿勢から、総合的に評価する</p>	

【授業科目】 家政学概論 ・ 家政学実習	【担当者】 山本良子
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>生活基盤をなす、家政学の概要を衣生活の分野について、必要な基礎知識を概説し、介護者として高齢者や障害者の衣料品について実践の場に役立てられるように問題点を考え、実習では、衣服の調整ならびに管理に必要な実際を理解することを目標とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>宮崎礼子編 家政学概論 誠信書房</p>	
<p>【参考書】</p> <p>中島満喜子・駒津君代・土橋とき子共著 寮母・ヘルパーの家政学①被服 (全国社会福祉協議会)</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>衣服生活について、下記の項目について概説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 衣服の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> ①衣服着用の目的 ②衣服の機能 2) 衣服の素材と品質表示 <ol style="list-style-type: none"> ①衣服の素材の種類と性能 ②衣服素材の加工 ③衣服素材の品質表示 3) 衣服と保健衛生 <ol style="list-style-type: none"> ①衣服と体温調節 ②汚れと衣服 ③衣料障害 4) 衣服の選択と管理 <ol style="list-style-type: none"> ①衣服の選択 ②衣服の管理 5) 高齢者、障害者と衣服 <ol style="list-style-type: none"> ①高齢者の衣服 ②障害者の衣服 <p>以上をもとに特に高齢者、障害者の最適衣料品のありかたについて考える。</p> <p>実習では、素材の簡単な鑑別の仕方、取り扱い方法、衣服の縫製の基礎と応用について行う。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポート・平常点</p>	

【授業科目】 家政学概論・家政学実習	【担当者】 北 郁子
【開講期】 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>生命の中核である食について、人間性をはぐくみ、心身共に健康を保ち、豊かな人間の食とは何かを学び、人間の尊厳がそこなわれない食事のあり方を、つくり出させる基礎的知識と介護のあり方を深めることを目標とする。</p>	
<p>【テキスト】 「高齢者の食生活と栄養」 光生館 日本栄養・食糧学会監修</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命現象を食からみると <ul style="list-style-type: none"> ・人間が生き生きと生きて行くためには、人体を構成する細胞が必要とする栄養素を過不足なく取り込み、それを用いて栄養の営みをする過程を理解させる。 2. 高齢者の食生活 <ul style="list-style-type: none"> ・人間が食べるということ ・ライフサイクルと食生活 ・高齢者のための食生活指針から現在の高齢者の食生活を考える 3. 高齢者の栄養所要量と食品構成。特にその個人化 4. 高齢者の献立作成と実習 5. 食べ物の選択と調理 6. 供食の仕方と食事介助について <ul style="list-style-type: none"> ・人間らしい、人間の尊厳が失われない食事を中心として 7. 健やかな高齢者のための食生活 <p style="text-align: center;">以上を理論と実習、ビデオ等を通じて理解を深める。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">筆記試験、及びレポート</p>	

【授業科目】 介護概論	【担当者】 大槻恵子
【開講期】 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>高齢者・障害者の生活の維持・向上をはかり、快適な生活を過ごすことが出来るように「介護」の理論と方法を学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>最新介護福祉全書14「介護概論」 メヂカルフレンド社</p>	
<p>【参考書】</p> <p>授業時に紹介する</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護の社会化：現代社会の介護と福祉 2. 介護の目的・機能・専門性 3. 介護の対象理解と介護の原則 4. 介護における人権保障と職業倫理 5. 介護における援助関係 6. 介護におけるコミュニケーション 7. 生活者としての自立支援と介護 8. 生活場面における介護：介護技術の基本 9. 介護の活動領域：在宅介護、施設での介護 10. 介護・看護・保健・医療の連携 11. 個別介護計画とケア・マネジメント 12. 介護と人間の死：終末期の介護 13. 介護従事者の健康管理と労働安全 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">試 験 レポート</p>	

【授業科目】 介護技術	【担当者】 大槻恵子・本田直子
【開講期】 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>高齢者や障害者がある人らしく快適に生活し、さらに生活の可能性を上げられるように、様々な場面で直接援助する方法を学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>最新介護福祉全書15「介護技術」 メヂカルフレンド社</p>	
<p>【参考書】</p> <p>授業で紹介する</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護を必要とする人々の生活を理解する方法を学ぶ。 2. 日常生活援助の介護技術 <ol style="list-style-type: none"> ① 観察 ② 居住環境の整備 ③ コミュニケーション ④ 食事・排泄・清潔・衣服の選択と着脱 ⑤ 社会生活の維持・拡大：安楽な体位、移動の動作 ⑥ 医療行為を要する介護 ⑦ 救急時の介護 3. 家族支援のための介護技術 4. 福祉機器の利用法 5. 介護と記録 	
<p>【評価方法】</p> <p>試験 レポート 平常点</p>	

【授業科目名】 障害形態別介護技術（老人）	【担当者】 木下安子
【開講期】 1 年 前期	
【授業目標】 高齢者介護の基本理念と介護方法の基礎を理解する。	
【テキスト・参考書】 特に指定しないが、課題に応じて文献、マスコミの報道資料等を活用する	
授 業 計 画	
<p>授業方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の身体的・心理的・社会的特徴に関する書籍、資料を自主的に読み、その特徴・課題・介護方法を研究する。 2. 集団学習（ワークショップ）によって深め、互いの知見を交流する。 <p>学習のすすめかた</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者に関する文献（単行本）マスコミの報道（新聞・雑誌記事等）を、各自の興味にしたがって探索する その探索結果の紹介と見解を発表し、討論する。 — 問題発見 — 2. 明らかになった高齢者に関する課題を整理し、分野別にグループをつくり、内容を深める学習をし、その結果を発表、討論する。 — ワークショップ — 3. 各自がこの過程で学んだ内容を整理し、次に掲げるテーマでレポートをまとめる。 — レポート作成 — レポートテーマ 高齢者をめぐる諸環境についての分析し、高齢者の介護の課題とこれからの方向 	
【評価方法】 — レポート作成 — 評価は学習過程全体で行う	

【授業科目】 障害形態別介護技術（聴覚障害）	【担当者】 貞廣邦彦
【開講期】 1 年 前期	
【授業目標】 1 聴覚障害に関する医学的知識を理解する。 2 聴覚障害者の心理や生活状態に即した介護方法を考える。 3 聴覚障害者のコミュニケーション方法を習得する。 4 重複障害者の介護について考える。	
【テキスト】 「手にことばを（初級）」東京都聴覚障害者連盟発行	
【参考書】 「わたしたちの手話（1）」全日本ろうあ連盟発行	
授 業 計 画	
1 聴覚障害の原因・種類・程度と聴覚障害の生活への影響 2 聴覚障害者のコミュニケーション方法と介護の留意点 3 聴覚障害者の社会生活と情報 4 手話の基礎的表現と指文字 5 生活場面での手話表現 6 歌の手話表現 7 手話の特徴と文表現 8 日常会話の手話表現 9 聴覚障害者との手話演習 10 手話通訳の基礎的演習	
【評価方法】 授業への出席状態と筆記試験によって評価する。	

【授業科目】 障害形態別介護技術（肢体不自由・内部障害）	【担当者】 大槻 恵子
【開講期】 前 期	
<p>【授業目標】</p> <p>身体障害（肢体不自由・内部障害）に関する知識を学び、障害の特性と身体障害者の生活条件に対応した介護技術を習得する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>最新介護福祉全書16「障害形態別介護技術」 メヂカルフレンド社</p>	
<p>【参考書】</p> <p>授業で紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>テキスト・参考書・VTR・資料等を活用し、身体障害（肢体不自由・内部障害）についての理解を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害の概念・障害の形態・障害者介護のあり方を学ぶ。 2. 身体障害をもたらす原因疾患について、基礎知識を身につけ、介護の方法を学ぶ。 (内部障害、脳・神経系疾患、骨関節疾患、難病の特徴と介護の方法) 3. 障害を持つ人々の心理や行動様式を理解し、障害に応じた生活支援の方法を学ぶ。 4. 介護に必要な各種の生活用具・福祉機器の知識と使用方法を習得する。 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">試 験 レポート</p>	

【授業科目】 障害形態別介護技術（視覚障害）	【担当者】 直居鉄
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>視覚障害といってもその程度、原因、障害発生時期および今後の進行予測など、個人によってそれぞれ固有な状態である。特に最近は、高齢で失明する人が増加しており、生活の状況はきわめて多様である。一人一人の状態を正しく認識し、適切な介護をするための知識技能を習得する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>視覚障害者の介護技術、点字の本</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>視覚障害に関係する医学的知識、残存感覚の活用など視覚障害を理解するための基礎的な知識を学習する。</p> <p>視覚障害者（児）の生活について厚生省による実態調査を始め、各種の資料により、教育、職業、生活の現状について学習する。</p> <p>介護技術としては、歩行・移動の介護と、コミュニケーションの介護として、点字の読み書き、普通文字の音訳（読み）と代筆の基本的な知識技能を学習する。</p> <p>日常生活において視覚障害による不自由を正しく理解し、適切な介護ができるような心構えを養う。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点、レポート</p>	

【授業科目】 介護実習	【担当者】 大槻恵子・本田直子・嶋田陽子
【開講期】 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設で生活している人々の「暮らし」を理解し、施設設備や施設職員のあり方について考える。 2. 学校で学んだ理論・技術を基礎として、利用者の状況に応じた介護ができる。 3. 介護福祉士としての介護観を養う。 	
【テキスト】	
<p>【参考書】</p> <p style="text-align: center;">授業で紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>1. 介護実習は、48日間を3期に分けて行う。各期の実習目標は以下の通り。</p> <p>〔1期〕 5月17日（月）～5月29日（土）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な障害を持ちながら施設で暮らしている居住者の、日々の暮らしの様子を理解する。 ・居住者への日常生活援助がどのように行われているかを知る。 ・介護活動に部分参加し、基本的な日常生活援助に必要な介護技術を習得する。 <p>〔2期〕（予定）9月6日（月）～9月18日（土）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居住者の施設利用までの経緯や現在の生活の様子を把握し、適切な生活援助とは何かを考える。 3期のケーススタディーの準備を行う。 ・施設内の他職種の業務内容を理解し、介護職員との連携の実際を学ぶ。 ・地域で暮らす高齢者の生活を支える様々なサービスを体験学習する。 <p>〔3期〕 11月8日（月）～12月4日（土）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居住者への援助を総合的に理解し、チームの一員として介護に参加する。 ・「個別援助計画」を立案・実践する。 ・援助の実践を評価し、介護観の形成をめざす。 <p>2. 実習施設は、特別養護老人ホーム、救護施設、身体障害者療養施設。学校が指定する施設で行う。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">実習記録 レポート 平常点</p>	

【授業科目】 介護福祉特講（リクリエーションワーク）	【担当者】 藺田碩哉
【開講期】 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>介護サービスの究極の目的は、援助の対象となる人々がいきいきと生きがいを感じながら生きることができるように、生活全体を活性化することである。その中でレクリエーション（日常的な楽しさづくり）援助の果たす役割は大きい。この授業ではこれまでともすれば軽視されがちだったレクリエーションの意味と価値を明らかにするとともに、レクリエーション援助の基本的な方法について体験的に学習する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>垣内芳子、藺田碩哉他編著「レクリエーション援助法」建帛社</p>	
<p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 出会うの時間・・・よりよく知り合うために 人と人との出会うの喜びを体験し、コミュニケーションを深めるレクリエーションの実際を体験する。 2) レクリエーションとは何か レクリエーションのイメージの点検から始めて、レクリエーションという概念がなぜ生まれてきたか、現代の社会でレクリエーションの持つ積極的な意義を検討する。 3) レクリエーション支援の必要 これからの福祉サービスのあり方を考え、その中でレクリエーション援助が果たすべき役割を考える。福祉現場でのレクリエーションを紹介するビデオ視聴を素材に、小グループでの論議を行う。 4) ケーススタディ(1)・・・高齢者の場合 高齢者のレクリエーションの事例を取り上げ、それが持つ可能性、援助を行う上での問題点、高齢者にふさわしいレクリエーションの素材研究を行う。 5) ケーススタディ(2)・・・障害者の場合 障害者のレクリエーションの問題を、障害者の生活を豊かにするノーマライゼーションの一環という視点から取り上げ、バリアフリーの実現の方策を検討する。 6) 生活を楽しむ・・・ライフスタイルとレクリエーション レクリエーションは生活の中に多様な楽しみを作りだす総合的なプログラムであるという見地から、レクリエーションが根づいた生活のスタイルを考える。 7) レクリエーション・パーティ実習 遊びの精神を生かし、一人一人が主人公であるような楽しいパーティをみんなで作りあげて「まとめ」とする。 	
<p>【評価方法】</p> <p>授業時に取り組むワークシートの内容と、最後の総括レポートの出来ばえを総合して評価する。</p>	

【授業科目】 修了研究演習	【担当者】 専任教員
【開講期】 前期・後期	
<p>【授業目標】 学生各人が、老人福祉、障害者福祉等に関する関心に基づいて施設福祉・在宅福祉・地域福祉関連の研究テーマを設定し、専任教員の指導のもとに個別又は小グループで文献講読、資料の収集・分析、調査、観察などの方法により研究を進めます。</p> <p>なお、学年末には研究の成果を論文としてまとめ、さらに修了研究発表会で口頭発表を行います。</p>	
【テキスト】	
----- 【参考書】	
授 業 計 画	
<p>4月から5月末まではオリエンテーション期間とし、研究テーマを考える期間とします。第一期介護福祉実習終了後に研究テーマの設定と指導担当教員を決定し、以後、担当教員指導のもと、個別のかつ集団的研究を進めます。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>研究の過程および研究論文によって評価します。</p>	

【担当科目名】 老人福祉特論

【担当者】 佐野 英司

【開講期】 専攻科 福祉専攻 後期

【授業目標】

1. 高齢者の人権を守るケアの在り方について学びます。
2. 在宅福祉への取り組み方について学ぶとともに、地域社会との連携の意義と方法について理解します。
3. 高齢者福祉政策および制度について学びます。
4. 高齢者福祉労働の在り方について学びます。

【テキスト・参考図書】

「すべての人にゆたかな老いを」 (文理閣)

「障害者の自立と発達保障」 (全障研出版部・加藤直樹著)

【授業内容】

1. 社会保障・社会福祉の過去・現在・未来
高齢者の人権を守るケアについての理解
 - 1) 老人福祉施設ケアの現状
 - 2) 人権を守るということはどういうことか
 - 3) 人権を守るケアとはどのようなケアか
2. 在宅福祉を進める意義と方法
 - 1) 地域の要介護高齢者と介護者の生活実態を捉える方法
 - 2) 要介護高齢者のニーズを、福祉サービスの利用に結びつける方法
 - 3) 住民の福祉理解を高め、在宅福祉を豊かにしていく方法
 - 4) 地域との連携を深める意義と方法
3. 公的介護保険制度と社会福祉基礎構造改革について学びます。
4. 福祉労働について考える
 - 1) 福祉労働について考える
 - 2) 高齢者福祉労働について考える
 - 3) 高齢者福祉に関わる介護福祉士の課題について考える
高齢者・障害者の自立と発達を考える

【評価方法】

出席状況（平常点）とレポートの総合点で評価します。
したがって、出席、遅刻は非常に重視します。

【授業科目】 社会福祉制度政策論	【担当者】 鍾 家新		
【開講期】 1 年 前期			
<p>【授業目標】</p> <p>現代日本における社会福祉制度政策の特徴と問題点は何か。二十一世紀の日本における社会福祉制度政策はいかに改革されるのか。本講義は、歴史の視点と国際比較の方法によって、前述の問題を探究する。本講義は①現代日本における社会福祉制度政策の成立・発展過程の推進要因、②日本の社会福祉諸制度の現状と問題点、③日本型福祉国家の特徴とゆくえ、についての理解を深めることを目標とする。本講義の受講によって、学生たちは日本の社会福祉制度政策を複眼的に見るための知識と能力を身につける。</p>			
<p>【テキスト】</p> <p>鍾家新著『日本型福祉国家の形成と「十五年戦争」』ミネルヴァ書房、1998年。</p> <hr/> <p>【参考書】</p> <p>講義の中で必要に応じて参考文献を紹介する。</p>			
授 業 計 画			
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の社会福祉制度政策に関する研究の到達点と問題点 2. 日本の社会福祉制度政策の成立・発展と産業化（Ⅰ） 3. 日本の社会福祉制度政策の成立・発展と産業化（Ⅱ） 4. 日本の社会福祉の政策主体（＝厚生省）の形成と日中戦争（Ⅰ） 5. 日本の社会福祉の政策主体（＝厚生省）の形成と日中戦争（Ⅱ） 6. 日本の社会福祉の有力制度（＝国民健康保険）の形成と日中戦争 7. 日本の社会福祉の有力制度（＝国民健康保険）の発展と太平洋戦争 8. 日本の社会福祉の有力制度（＝厚生年金保険）の形成と戦争 9. 生活保護の現状と問題点（Ⅰ） 10. 生活保護の現状と問題点（Ⅱ） 11. 年金保険の現状と問題点（Ⅰ） 12. 年金保険の現状と問題点（Ⅱ） 13. 医療保険の現状と問題点（Ⅰ） 14. 医療保険の現状と問題点（Ⅱ） 15. 総括 — 日本型福祉国家のゆくえ </td> <td style="vertical-align: top; text-align: right;"> <ol style="list-style-type: none"> (第1回) (第2回) (第3回) (第4回) (第5回) (第6回) (第7回) (第8回) (第9回) (第10回) (第11回) (第12回) (第13回) (第14回) (第15回) </td> </tr> </table>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の社会福祉制度政策に関する研究の到達点と問題点 2. 日本の社会福祉制度政策の成立・発展と産業化（Ⅰ） 3. 日本の社会福祉制度政策の成立・発展と産業化（Ⅱ） 4. 日本の社会福祉の政策主体（＝厚生省）の形成と日中戦争（Ⅰ） 5. 日本の社会福祉の政策主体（＝厚生省）の形成と日中戦争（Ⅱ） 6. 日本の社会福祉の有力制度（＝国民健康保険）の形成と日中戦争 7. 日本の社会福祉の有力制度（＝国民健康保険）の発展と太平洋戦争 8. 日本の社会福祉の有力制度（＝厚生年金保険）の形成と戦争 9. 生活保護の現状と問題点（Ⅰ） 10. 生活保護の現状と問題点（Ⅱ） 11. 年金保険の現状と問題点（Ⅰ） 12. 年金保険の現状と問題点（Ⅱ） 13. 医療保険の現状と問題点（Ⅰ） 14. 医療保険の現状と問題点（Ⅱ） 15. 総括 — 日本型福祉国家のゆくえ 	<ol style="list-style-type: none"> (第1回) (第2回) (第3回) (第4回) (第5回) (第6回) (第7回) (第8回) (第9回) (第10回) (第11回) (第12回) (第13回) (第14回) (第15回)
<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の社会福祉制度政策に関する研究の到達点と問題点 2. 日本の社会福祉制度政策の成立・発展と産業化（Ⅰ） 3. 日本の社会福祉制度政策の成立・発展と産業化（Ⅱ） 4. 日本の社会福祉の政策主体（＝厚生省）の形成と日中戦争（Ⅰ） 5. 日本の社会福祉の政策主体（＝厚生省）の形成と日中戦争（Ⅱ） 6. 日本の社会福祉の有力制度（＝国民健康保険）の形成と日中戦争 7. 日本の社会福祉の有力制度（＝国民健康保険）の発展と太平洋戦争 8. 日本の社会福祉の有力制度（＝厚生年金保険）の形成と戦争 9. 生活保護の現状と問題点（Ⅰ） 10. 生活保護の現状と問題点（Ⅱ） 11. 年金保険の現状と問題点（Ⅰ） 12. 年金保険の現状と問題点（Ⅱ） 13. 医療保険の現状と問題点（Ⅰ） 14. 医療保険の現状と問題点（Ⅱ） 15. 総括 — 日本型福祉国家のゆくえ 	<ol style="list-style-type: none"> (第1回) (第2回) (第3回) (第4回) (第5回) (第6回) (第7回) (第8回) (第9回) (第10回) (第11回) (第12回) (第13回) (第14回) (第15回) 		
<p>【評価方法】</p> <p>レポートと出席状況。</p>			

【授業科目】 障害福祉論	【担当者】 村田保太郎・尾島豊
【開講期】 1 年 後期（前半）	
【授業目標】 障害者福祉の概要を把握し障害者の実態及び福祉の現状を理解する また、障害者に対する療育・相談、民間活動の現状について理解を深める	
【テキスト】 障害者福祉論 介護福祉士養成講座（3） 中央出版 1997	
<hr style="border-top: 1px dashed black;"/> 【参考書】	
授 業 計 画	
【障害児福祉論】 1 障害者福祉の考え方 2 障害の概念と障害者の実態 3 障害者福祉政策のあらまし 5 障害者福祉と介護福祉士 6 障害者福祉の現状と課題 7 障害者の生活と援助サービス (担当 村田保太郎) 【障害者福祉論】 障害者に関わる制度の概要を学ぶ。身体障害者、知的障害者、精神障害者の福祉サービス、さらに雇用や環境の面などの対策などについて理解する。講義は、学生報告やディスカッションを取り入れながら問題意識を深める形で進める。(担当 尾島豊)	
【評価方法】 学期末試験と小レポート	

【授業科目】 社会福祉援助方法論	【担当者】 山口尚子
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>介護福祉の実践にとって必要な社会福祉援助技術の意義と内容について理解を深めると共にその応用能力を向上させる。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業時に指示する。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>授業の中で適宜紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉援助技術と介護福祉士 2. 社会福祉援助技術の基本的枠組み 3. 直接援助技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) 個別援助技術（ケースワーク）の意義・原則・過程など (2) 集団援助技術（グループワーク）の意義・原則・過程など 4. 間接援助技術 <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域援助技術（コミュニティワーク）の意義・原則・過程など (2) その他（ソーシャルアドミニストレーション、ソーシャルアクションなど） 5. 関連援助技術（ネットワーク、ケアマネジメント、スーパービジョンなど） 6. 社会福祉援助技術における具体的手段 <ol style="list-style-type: none"> (1) 面接の構造と技法 (2) 記録の書き方 (3) 事例研究の方法 (4) 社会資源の活用 	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末レポートによる。</p>	

学籍番号・

氏 名・

〒187-8570 東京都小平市小川町1-830
教務課042(346)5619